（第３種郵便物認可）

決勝は上平VS東秩父

全労済カップ争奪 埼玉県スポーツ少年団 小学生軟式野球交流大会

全労済カップ争奪第42回県スポーツ少年団小学生軟式野球交流大会（県体育協会県スポーツ少年団、県教育委員会、埼玉新聞社主催、県スポーツ少年団野球部会主管、県野球連盟後援、全労済埼玉県本部特別協賛）は11日、加須豊野台球場で準決勝が行われ、上平（上尾）と東秩父が決勝に駒を進めた。

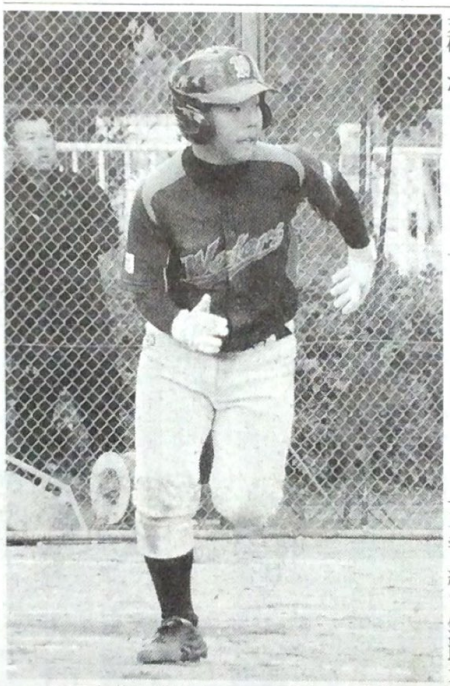
今夏県大会王者の上平は5―6の五回に藤村の適時二塁打で追い付き、昨年覇者の北川辺ウォーターズ（加須）をタイブレークの末破った。

東秩父は田中滉の本塁打などで終盤に8得点し、9―4で川口トニーズに逆転勝ちした。

決勝は19日、県営大宮で争われる。

▽準決勝
北川辺ウォーターズ（加須）　3 0 0 0 3 0　6
上　平（上尾）　3 0 1 1 1 0　6
（上平のタイブレーク勝ち）
（北）松井祥―柿沼
（上）武田、渡辺、成田―吉岡
▽二塁打　松井祥2（北）藤村（上）

東秩父　0 4 0 0 0 0 0　4
川口トニーズ　1 0 0 3 4 1 ×　9
（川）小名木―本庄
（東）中村、前田―前田、中村
▽本塁打　田中滉（東）▽二塁打　清藤、小名木（川）中村（東）



5回表北川辺1死二、三塁、大関が右中間に2点適時打を放つ

狙うは夏秋連覇

今夏と昨秋の県大会覇者同士の対決は上平がタイブレークの末、北川辺ウォーターズを下し、2季連続の決勝に駒を進めた。点の取り合いとなった大接戦に金子敦志監督は「先制されて焦ったが、勝てて良かった」と肩をなでおろした。

初回から試合は動いた。両先発が浮足立ち、定まらない制球から3点ずつを失う。その後三、四回で2点を加えた上平だったが、相手にも連覇に燃える底力がある。一回途中から好投していた渡辺健翔が、「高めに浮いてしまった」と五回に3点を献上し、5―6と逆転を許した。

しかし、ナインの雰囲気は悪くならなかった。五回1死二塁、好機で勝負を避けられる4番の後ろを、勝負強さで任される藤村美輝が「速球派の好投手だから当てたら飛ぶと思った」と狙い球を振り抜き、左中間への適時打で同点に追い付くと、タイブレークで2点を奪い、勝利をものにした。

関東大会出場で得た自信と実力で目指すは夏秋連覇。主将の成田悠真は「浮かれないで、声を出し連覇する」と上沖イーグルス（春日部）以来、2年ぶりの快挙を目指す。（斉藤優介）

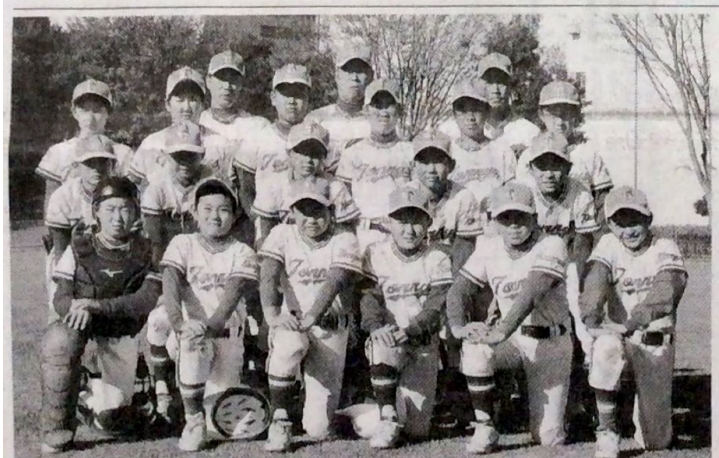
北川辺ウォーターズ―上平　タイブレークで勝利を決め、喜ぶ上平ナイン（斉藤優介撮影）

昨年王者の北川辺 連覇への重圧大きく

昨年王者が姿を消した。タイブレークの末に惜敗し、小野田英樹監督も「守備がバタバタしてしまった」と、準決勝の緊張感から、まさかの6失策に肩を落とした。

初回の攻撃は完璧だった。立ち上がりの相手投手から松井祥太が中前打を放ち、四球と犠打で1死二、三塁。続く広瀬聡大が中前2点適時打を放つと、岡田花奈の投ゴロの間に3点目を奪った。

だが、今大会無失点だった先発の左腕松井祥は「打たせて取るピッチングができなかった」と、初回に2四死球を与えるなど精彩を欠き、五回までに6失点した。

それでも五回に大関翔が「つなぐバッティングをする」と一時逆転となる2点適時打を放つなど勝機がなかったわけではない。それだけにナインには悔し涙があふれた。

〝連覇への挑戦〟、新チーム結成時からこの舞台を常に意識し、チーム力を高めてきた。目に見えない重圧は大きいものだったに違いない。主将の萩原陸斗は「最高の仲間とここまでこられたのはよかったが、優勝したかった」と涙を拭った。